

## 前回指摘事項と対応方針について

主な指摘・意見	対応方針（案）
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3つの価値にもう1つ、元々あるありのままの自然を、手をつけずにどうやって残していくかという観点も必要。</li> <li>○ 瀬戸内海の価値は、何か1個欠けている。比喻でいうと座敷や居間みたいなもの。</li> <li>○ 視点が人に偏り過ぎていて、生物側からの視点が少ない。</li> <li>○ 3つの価値で、暮らし、生活という観点も重要。</li> <li>○ 道という言葉が入っているが、ほとんど何も書かれていない。海運・港湾は考慮しなければいけない重要なファクター。</li> </ul>	<p>3つの価値については、今後瀬戸内海における今後の目指すべき将来像と環境保全・再生の在り方の論点（案）において議論することとしている、豊かな海のベースとなっている考え方を提示したものである。</p> <p>ご指摘や今後のヒアリングでのご意見を踏まえ、「豊かな海」について整理したい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3つの価値と、5つの基本的考え方、論点が6つ、どれをどのレベルで議論していか見えにくい。整頓が必要。</li> <li>○ 時間のスケールと平面的なスケールが、どのあたりの視点で考えたらいいか検討が必要。</li> <li>○ 重みづけをどうするかというのは非常に大きな課題。</li> </ul>	<p>基本的には論点を議論していただくものであるが、時間のスケール、平面的なスケール、各取組の重みづけについても同様に、ご指摘や今後のヒアリングを踏まえ、整理したい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 窒素とりんの規制によってどういう現象が起きているかという検証は、どの程度進んでいて、今どういう段階にあるのか。</li> </ul>	<p>水質に関しては、第7次水質総量削減の在り方の検討において、窒素やりんの削減状況と窒素やりん濃度、環境基準達成率等との関連等の検討を行っているが、ご指摘のあるノリの色落ち等の現象と窒素・りんの総量削減の関係については、関係機関で調査研究が進められているところ。そうした知見を収集・整理し、管理方策と合わせ、今後さらに検討を進める必要があると考える。</p>

主な指摘・意見	対応方針（案）
○瀬戸内海では風力発電はどのぐらい有望か。	参考資料 3 参照
○海洋関係の自然環境情報データベースはあるのか。	<p>全国を対象としたものでは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋情報クリアリングハウス <a href="http://www.mich.go.jp/">http://www.mich.go.jp/</a></li> <li>・CeisNet(沿岸海域環境保全情報) <a href="http://www2.kaiho.mlit.go.jp/">http://www2.kaiho.mlit.go.jp/</a></li> </ul> <p>瀬戸内海を対象としたものでは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬戸内海環境情報センター <a href="http://seto-eicweb.pa.cgr.mlit.go.jp/index.asp">http://seto-eicweb.pa.cgr.mlit.go.jp/index.asp</a></li> <li>・せとうちネット <a href="http://w3.seto.or.jp/seto/index.htm">http://w3.seto.or.jp/seto/index.htm</a></li> </ul> <p>がある。</p> <p>また、現在、海洋情報を一元化したデータベースの構築に向けた検討が行われている。</p>
<p>○色落ち問題について、条件の整うところであれば、何らかの社会実験を行い、長期的なプランに活かすということは検討できないか。</p> <p>○例えば岡山県では、吉井川・高梁川水系のダム湖の緊急放流などの社会実験的なものが行われているので、現地ヒアリングの中で情報を集めながら、取りまとめに役立てるとよい。</p>	<p>播磨灘等で行っている海域の物質循環健全化計画（ヘルシープラン）において実証試験を実施しているところ。その検討状況や、各地で行われているダム湖の緊急放流、下水処理場の季節運用等の取組みも参考に、取組の方向性を整理する。</p>